

# ヒロテック、大林道路、大蓉HD



粘性土でも残土ゼロに  
(ヒロテック提供)

自動車部品製造などを手掛けるヒロテック（広島市佐伯区、鶴野徳文社長）と大林道路、土木建設・運輸業の大蓉ホールディングス（HD）、埼玉県川口市、西田喜代子代表取締役兼最高経営責任者（CEO）は、ダンプ荷台に付着する残土をなくせるフッ素樹脂ライニングプレート「楽フロン」の販売を強化する。滑りに優れ荷台隅角部に設置。残土を解消することで運搬回数が減り、省エネや二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）削減に貢献する。堆雪運搬など他用途への展開も検討中だ。

ダンプ

# 荷台の残土解消

## フッ素樹脂被覆板を拡販

楽フロンは大学などとの共同研究で開発した金属表面処理技術を応用。難接着で難接合材料のフッ素樹脂とステンレス鋼板をレーザーで直接接合する。フッ素樹脂板でライニングしたステンレスで幅1000ミリ、長さ1000ミリ。荷台隅角部に設置するだけで粘性土でも荷下ろし時の残土をなくせる。10トダンプでは25枚設置する。価格は取り付け費を含め30万円。

通常のダンプでは荷下ろし時の土砂付着率が約10%とされる。滑りに優れた楽フロンを設置すれば10トダンプ1台で年間3500リットルの燃料を削減でき、運転経費も約60万円減らせる。10トダンプでは残土が1トに及び、人手不足や働き方改革の中で荷台清掃も効率化できる。省エネルギーセンターが

主催する2022年度「省エネ大賞」で製品・ビジネスモデル部門の経済産業大臣賞を受賞した。近く国土交通省の新技术情報提供システム（NETIS）への登録も予定。省エネやCO<sub>2</sub>削減効果などを武器にトンネル工事などをターゲット

トに販売拡大を目指す。多様なニーズに応えるため豪雪地帯の堆雪運搬への応用を検討。実証実験で効果を確認している。用途に合わせた脱着機能やコスト削減に向けた材料費の低減なども模索していく。